

多田ヶ嶺

平成29年11月号

発行 小浜第二中学校 電話52-2918

☑ 小浜二中「学校日誌」 毎日更新しています

合唱コンクールを終えて

校長 西川 芳夫

秋もしだいに深まり、校舎から見える多田ヶ嶺が少しずつ色づき始めました。先週の金曜日は合唱コンクールがありました。お忙しい中、大勢の保護者・地域の皆様に文化会館まで足を運んでくださり、ありがとうございました。どのクラスも心のこもった合唱を聴かせてくれました。苦勞して創り出したハーモニーは各学級の宝物になったことと思います。

体育祭に引き続き、生徒たちは大きな感動をくれました。特に最後の最優秀賞クラスのアンコール合唱のことです。心をひとつにした美しいハーモニーと涙、合唱後抱き合っただけの喜び合う姿…、それに応える会場からの大きな拍手と歓声。会場全体が感動と温かい雰囲気になりました。合唱の醍醐味と学級集団の大切さを会場全体で感じることができました。

合唱コンクールを終えて、我がクラスの合唱に満足できた学級、課題が残る学級もあったことでしょう。練習や本番を通して、各学級にはいろいろなドラマがありました。学級が一丸となって練習に向かえず、学級会を開いて意見をぶつけ合う学級もありました。いろいろな出来事を乗り越え、かけがえのない学級集団が出来上がるのです。「このクラスの友達と出会えてよかった」と、全員が胸のはれる学級づくりを今後とも目指してほしいと願っています。

先日、全国中学校校長研究会に参加しました。その際、2015年にノーベル賞を受賞した大村智先生(北里大学特別荣誉教授)の講演を直接聞くことができました。

先生の生き方に心を動かされる、とても充実した講演でした。当時、アフリカでは難病が流行し、毎年約五万人以上が失明し、一億人以上の患者がいました。先生はその難病に効く微生物を日本の土壌から発見し、一億人を超える人の命や病気を治しました。年1回打つだけで効くというイベルメクチンという抗生物質を発見したのです。

校長ばかりの集まりでしたので、子育てにつながるお話をたくさんお聴きしました。感銘を受けた言葉がありましたので、ご紹介します。

1 「人の役に立てるかどうか」を、大切な判断基準にする。

大村先生は小さい頃から、「人のお役にたてることをしなさい」と、祖母や両親からいつも言い聞かされて育ちました。ですから、分かれ道に立った時、「人の役に立てるかどうか」が大切な判断基準になったそうです。「情けは人のためならず」という言葉を示され、「人へかけた情けや思いやりは、不思議と自分のもとへ返り、逆にいつも人から助けられました」と、しみじみと語っておられました。



2 出会った人をいつも大切に、感謝の気持ちを持つ。

講演の中で、これまで出会ってきた恩師や友人の話をたくさんされました。恩師、友人、どの人も大村先生にとってはかけがえのない人ばかりだったようです。「一期一会」の大切さを何度も口にされました。生徒たちはこれから多くの人と出会っていきます。人への思いやりや感謝の気持ちを大切にすれば、自らの生き方を間違えることは決してありません。

3 成功した人はたくさん失敗している。失敗なんて大したことない。

「うまくいなくて当たり前。やったことはだいたい失敗する。そのうち5、6、7回やっているうち、びっくりするくらいうまくいく。それを味わうと失敗が怖くなる。失敗したからよかったと思えるようになる」生徒たちに聞かせたい言葉です。大村先生は数え切れない失敗を繰り返し、それでも、人のお役に立ちたいとあきらめませんでした。失敗の連続が世界中の人々の病気を治療し、多くの人の幸せに、そして自らのノーベル賞受賞につながったのです。

生徒指導主事担当 山下和彦

2学期の2つめの大きな行事である合唱コンクールが終わり、一段落となりました。コンクールを終えて、取り組みや本番当日を振り返り、喜びや悔しさから得た教訓から学んだことが多かったと思います。これは、合唱コンクールという一つの目標に向かってみんなで取り組むことによって得られる、学校生活でしか味わえない素晴らしい経験です。

今月は、その素晴らしい経験を学校生活や日々の授業に活かす月です。来週には学力診断テスト（3年生）、月末には期末テストがあります。秋の深まりと共に落ち着きやすい時期でもあります。気持ちを切り替えて、落ち着いた生活を送る中で、日々の授業に集中し勉学に励んでほしいと思います。体育祭と合唱コンクールで培った絆が、授業中や学習への取り組みに活かされることを願っています。そして、眠育講演会で学んだ、よい睡眠から生活リズムを整え、脳を活性化していくことが全てを安定させることにつながっていく事も忘れず実践して下さい。

自転車の安全利用のために…

今月号は自転車のルールについて紹介します。登下校はもちろん、普段からの自転車の乗り方についてもしっかりと考えてほしいと思います。

自転車安全利用五則

- ① 自転車は車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④ 安全ルールを守る
 - ・二人乗り、並進等の禁止
 - ・夜間はライト点灯
 - ・交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- ⑤ ヘルメット着用

秋が深まり、日の暮れが早くなったり、天候が崩れることが多くなったりしてきました。生徒が安全に登下校できますように、ご家庭でも指導をお願いします。なお、お車で送迎される場合、学校前信号から校門付近までの道路が大変混み合う場合があります。安全運転にご協力ください。

○二人乗りの禁止

- ・転倒するなど、後ろの人は大けがをするおそれあり
- ・バランスが崩れて危険

【根拠 道路交通法第57条：罰則2万円以下の罰金又は料料】



○並進の禁止

- ・前から歩行者や車などが来た時に避けることができず並んでいる自転車同士のハンドル等がぶつかり、転倒するおそれあり

【根拠 道路交通法第19条：罰則2万円以下の罰金又は料料】



○交差点での信号遵守と一時停止、安全確認

- ・信号無視や一時停止をしないことにより、事故が起こるおそれあり

【信号無視…根拠 道路交通法第7条：罰則3ヶ月以下の懲役又は5万円以下の罰金】

【一時停止…根拠 道路交通法第43条：罰則3ヶ月以下の懲役又は5万円以下の罰金】



* 自転車であれ、相手をケガさせた場合には賠償金等の支払いが生じてきます。被害者にも加害者にもならず、交通ルールを守って自転車を利用できるようにしましょう。

小浜二中

検索

毎日更新中!

学校日誌

- ・毎月、お忙しい場合は、サインや一言でも結構です。
- ・保護者の声については次号で紹介させて頂くことがあります。ご了承ください。

二中学校だより

多田ヶ嶺 11月号 保護者の声 年 組 保護者氏名

生徒会コーナー

生徒会担当 太田 祐貴

ペンギンは、一羽のペンギンが海の中に飛び込むまで他のペンギンは飛び込もうとしません。ところが、一羽のペンギンが飛び込むと、勢いよく次々と飛び込む。そういった生態を持っているそうです。

先日、後期生徒総会が開催され、後期スローガンの発表がありました。執行部は、「活気のある二中」「絆の強い二中」をめざすべく、活気の「か」、絆の「き」を取って「かきの種」と名付けました。「この種をまき、活気と絆の花を咲かせたい」という思いが込められています。また、現在の二中の課題の背景には、他人が動かなければ自分も動けないという人任せになる部分があると考え、中学生全員で最初に飛び込むペンギンのような姿をめざしたいとのことでした。そして、各委員会も「〇〇の種」と活動目標を設定し、最初のペンギンのように先頭に立って、生徒会活動を展開していくという方針の発表もありました。スローガンは半年後の二中生の姿を意識して、執行部が時間をかけて生み出してくれました。中学生全員で大切にしていきたいと思います。

さて、総会の中で、執行部と保健整美委員長から「二中の清掃を無言清掃にしませんか」という提案がありました。一見、無言清掃と「活気」「絆」は関係がなさそうに思えますが、「新しいことにチャレンジする姿勢を二中の活気につなげよう！」「全員で真剣に取り組むことで絆を強く！」という説明でした。無言清掃については、みなさんの中で賛否が分かれています。それはとてもいいことだと思います。しかし、忘れてほしくないのは「よりよい二中にしていきたい」という心を見失わないことです。なぜなら生徒会活動はそこに向かっていくからです。現状の課題をどのような方法で改善していくか。無言清掃の試行期間の中で、多くの気づき・発見があるといいなと思います。今回の提案をきっかけに、各々が考えを持ち、それを表現し、みんなで二中の清掃を作りあげる。そんな活動になることを期待しています。執行部と保健整美委員長が、最初のペンギンとなってまいてくれた種を、全校で育てていきたいと思います。



部活動コーナー

【リーダー研修会開催】

部活動担当 古田 哲也

先月の7日(土)に行われたリーダー研修会では、各部活動の代表が部活動について熱く語り合いました。そこでは、小浜二中の部活動スローガンでもある「愛される二中生」について話し合い、各個人それぞれの愛される姿について思いをめぐらせました。それが右のイメージ図になります。

「愛される二中生」に近づく方法は一つではありません。今回のリー研で出た意見のように、様々な方法で近づくことができます。大切なのは、意識と行動です。新人戦を終えた今、「愛される二中生」とは何か、もう一度立ち返って次に向かってほしいものです。

作成した掲示物は、現在ホールに展示中です。ぜひ、一度目にしてみてください。



二中学校だより

多田ヶ嶺 1 1 月号 生徒の声 年 組 氏名

【部活を通して磨くのは技術？】

部活動を見ていると、その人の人間性がプレーに表れていると感ずます。その人間性は部活動だけでなく、授業、行事、学校生活、家庭生活など様々な形で表れます。(図1)

その人間性は日々磨かれています。例えば、「部活動を通してあいさつがしっかりできるようになった＝礼儀正しい人間性を身につけた」と考えることができます。(図2)そうして身につけた人間性は様々な場面で発揮されます。授業のあいさつ、行事で見にきていただいた方へのあいさつ、学校生活の中でのあいさつ…。そうして高まった人間性はどんどん良い影響を与えていきます。(図3)

逆に、学校、家庭、様々な場面で努力して高めた人間性は、部活動でも必ず生きてきます。つまり、学校で頑張っていること、家で頑張っていること、部活で頑張っていること、全てがつながっていて、全てが自分の力になるということです。(図4)だからこそ、部活だけでなく全てにおいての努力をおしまないでください。

3年生は引退を経験したことで、それを実感できた人が多いのではないのでしょうか。感謝、努力、友情、協力…部活動を通して学んだことが学校生活の中でも生きていくはず。そういったことは気づかないうちに育っていくものです。しかし、間違いなく今の自分をつくっています。人間性を育てているのです。

図1

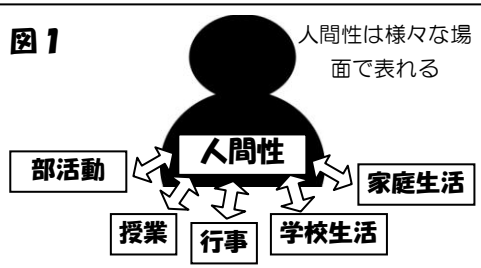


図2



図3

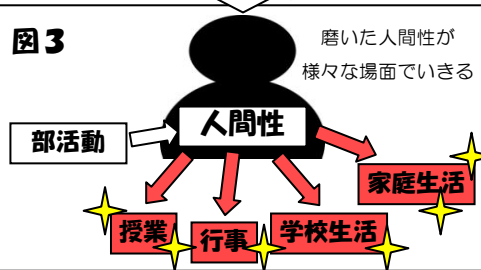
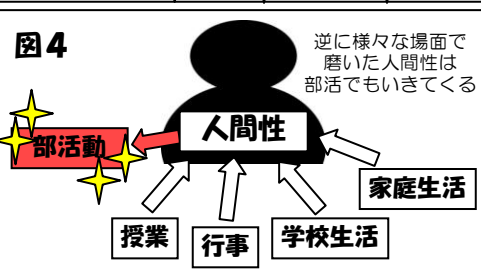


図4



学力向上に向けた取組第2弾

家庭学習徹底に向けて

	家庭学習課題	自主学	提出日
理科	プリント⑩		10/25(月)
社会	7-UP24②まで		
数学	7-7P99 基本1番図		10/25(月)
国語	漢1-1 158・159		10/25(月)
英語			
新研究	学診対策プリント集(10/25(月)配布)		10/23(日)

全教員による個別指導

本校はさらなる学力向上に向けて朝学習を強化しています。朝学習の数学と英語については校長、教頭を含め副担任が2～3名のチームを作り、各クラスで個別指導を実施しています。

朝学習プリントには基礎的な内容の定着と、様々な資料を活用する発展的な内容の2種類あり、自分の力に応じたプリントから取り組み、一人一人が確実に力をつけられるようにしています。

これまでのように、担任一人で見えていくのではなく、いろんな教員が一人一人の生徒を見ています。

学習時間を視覚化

前回の中間テスト前から、学級毎に毎日の学習時間を集計しています。その意図は、生徒たちに自分たちの学習時間を意識し、次にはさらに学習時間を増やしていこうという意識を持ってもらうためです。今後、2学期期末、3学期期末と継続して学習時間を記録しその伸びを見ていきます。今回の結果は右の通りです。

次回、期末テスト前には、この結果より少しでも多くの学習時間の確保をめざしていきましょう。



	1年	2年	3年
学年合計時間	539	760	820
一人あたりの学習時間	21	25	30

※テスト前12日間の値です(単位は時間)